

# 2017 年度事業報告書

【期間】2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

## 1. 全体総括

---

2017 年度は、「非営利型一般社団法人あんしん地域見守りネット」の事務局を中心に、高齢社会のあり様を考察する調査研究に注力しつつ、商店街の活性化や NPO・企業からの相談業務などに取り組みました。

この一年間で、十年後二十年後の日本社会のあり様を深く考察する機会を得ました。特に、時間と労力をかけてきたあんしん電話の活動は、NPO 法人として取るべき道についても、多くの示唆を得ました。

CoCoT にとって、孤立化した高齢者(社会的弱者)の救済をきっかけにして、地域社会のセーフティネットを築くための具体的な方策でした。ところが、活動の推進を阻んだ大きな要因の一つに、複雑に絡み合った地域の関係性がありました。幾層にも重ねられた歴史の上に、利害関係や地縁・血縁関係と個々人の思い、政治や経済の流れが影響し合いながら成り立っている地域とそこに住む人々の存在でした。あんしん電話の事業は、その混沌とした関係性の中に入り込んでいく活動でした。気が付くと、混沌とした混乱を自己中心的な自己保身的なもの捉え、「当事者の人達と共に」という言葉をスローガンにして自分たちがいかに利他的で献身的な活動あるかを唱えていました。その自分たちの姿に気づいたとき、大きな転換点が訪れました。

あんしん電話に取り組む内部の人には気づけないことを、客観的にみる機会を与えてくれたのは、あんしん電話には直接の関わりのない他のネットワークや支援者の知見でした。様々な方向から厳しい指摘や可能性への期待と、あんしん電話活動を構成する人々の意識の落差は、CoCoT にとって活動の大きな分岐点になりました。

2012 年のニッセイ聖隷健康福祉財団の調査研究事業をきっかけに取り組んできた「あんしん電話事業」は、6 年経って、CoCoT としては、伴奏者としての一定の役割を終え、地域の特性や個々の縛りを超えて、洗練された事業へ収束していく時期に来ている感じています。そしてその先は、CoCoT の本来の目的、公共性の高い活動を経済効果と社会的なインパクトのある事業に育てていくことに中間支援組織として取り組んでいくことになると思います。

## 2. 個別事業報告

---

### 1 事業系

(1) コミュニティ・コーディネーター部門(地域活性化センター松戸)

#### ①【地域連携】一般社団法人あんしん地域見守りネット事務局

「あんしん電話」の取り組みを通して、CoCoT が組織として学び蓄積した経験を踏まえて、課題の当事者と共に歩みながらも、伴奏者として中間支援の役割を果たしていくことを軸にしました。

新法人の事務局として、多角的な財源を確保し、経済活動を伴った事業を構築していくことが大きな柱でした。

新法人は、当事者(町会・自治会の役員)、賛同者(医療機関・介護機関など)、協力者(あんしん電話の活動に個人的に共感して支援してくれる人)の層がしっかり固まって、それぞれの役割が見えてきました。多角的な財源の第一歩は踏み出されました。これからは、外部からの支援が必要になります。外部からの支援を引き出し事業として成り立たせるために、利用者の大幅な拡大が必要です。

問題は、新法人を運営する理事たちが、高齢者支援の活動の当事者で、自分たちのあんしん電話の活動には強い意欲を持っていますが、法人の経営の当事者という認識は弱いところです。

CoCoT は 2017 年度の方針として、自らの立ち位置を伴奏者とし、当事者と伴走者の違いを認識しながら、共にある活動を目指しましたが、活動の伴奏者であり、組織運営の伴奏者である立ち位置を持つことは、困難でした。組織運営は経営者の仕事なので、自覚した担い手があんしんネットの組織の中に現れていない現状では、事務局指導の体制が出来上がってしまいます。それは、本来 CoCoT の目指すものではありません。非常に難しい判断ではありますが、あんしんネットが組織的に自立していくために、事務局の業務をあんしんネット本体に返していくこと必要があると考えています。一方で、CoCoT の経営状態からしても、これ以上、負担となる事務局業務を請け負うこともできないのも現実です。

#### ②【人材育成】コミュニティ・コーディネーター育成

コーディネーター育成講座には取り組みませんでした。一般社団法人あんしん地域見守りネットが取り組んだ「見守りサポーター養成講座」を実質的に企画運営しました。(一般社団法人あんしん地域見守りネット 2017 年度事業報告参照)

#### ③【人材育成】まちの学び舎「まちばカレッジ」運営

2 年目となる「まちばカレッジ」事業は、去年から実施している「持ち寄り読書会」、「哲学カフェ」、「Good Question Café」を毎月継続的に実施。どの企画も毎月平均 3~5 名ほどの申し込みがあり、リピーターも増え、安定的な運営ができました。特に哲学カフェは 500 円から 1500 円に参加費を引き上げたが、特に参加者が減ることは無く、参加者が一人ひとり持つ関心を共有し深くディスカッションすることへの強いニーズがあること

が確認できました。しかし、後半、新たな参加者の獲得にはつながらず、リピーター頼みの運営となっていました。今回確認できたニーズを中心に起きつつ、より多くの方に魅力を感じてもらおう広報戦略の検討が必要であると考えています。

昨年から引き続き5月6月と実施した「助成金講座」は4名の申し込みがあり、アンケートでは全4回の講座を通じて、「満足」が11回、「やや満足」が3回の評価をもらいました。

7月、8月に企画していた「まちばのピアノレッスン」は、検討やチラシ作成に予算をかけたにも関わらず、参加者を集めることが出来ず中止となりました。作成したチラシを誰にどのように配布するかを検討が不十分なまま進めてしまったことで、ターゲットへの周知が満足に出来なかったことが大きな原因と考えられます。

#### 以下 2017 年度実績

	日付	講座名	テーマなど
1	4月4日	まちばカレッジの持ち寄り読書会	第7回
2	4月13日	まちばカレッジの哲学カフェ	第2回
3	5月18日	まちばカレッジの哲学カフェ	第3回
4	5月22日	自分らしい助成金のとり方講座	第1回 活動に合った助成金の探し方
5	5月23日	まちばカレッジの持ち寄り読書会	第8回
6	5月29日	自分らしい助成金のとり方講座	第2回 要綱に沿った企画書の書き方(前編)
7	6月4日	Good Question Café	第2回
8	6月5日	自分らしい助成金のとり方講座	第3回 要綱に沿った企画書の書き方(後編)
9	6月8日	まちばカレッジの哲学カフェ	第4回
10	6月19日	自分らしい助成金のとり方講座	第3回 無理のない資金計画の立て方
11	6月20日	まちばカレッジの持ち寄り読書会	第9回
12	7月6日	まちばカレッジの哲学カフェ	第5回
13	7月18日	まちばカレッジの持ち寄り読書会	第10回
14	7月23日	Good Question Café	第3回
15	8月10日	まちばカレッジの哲学カフェ	第6回
16	8月22日	まちばカレッジの持ち寄り読書会	第11回
17	8月27日	Good Question Café	第4回
18	9月7日	まちばカレッジの哲学カフェ	第7回
19	9月25日	Good Question Café	第5回
20	10月5日	まちばカレッジの哲学カフェ	第8回
21	11月9日	まちばカレッジの哲学カフェ	第9回
22	11月12日	Good Question Café	第6回

23	12月7日	まちばカレッジの哲学カフェ	第10回
24	12月17日	Good Question Café	第7回
25	1月18日	まちばカレッジの哲学カフェ	第11回
26	1月21日	Good Question Café	第8回
27	2月8日	まちばカレッジの哲学カフェ	第12回
28	2月11日	Good Question Café	第9回
29	3月8日	まちばカレッジの哲学カフェ	第13回
30	3月11日	Good Question Café	第10回

参加者延べ数：115名

主催：CoCoT

#### ④【人材育成】情報発信と場づくり

松戸市内のNPO法人の運営や地域活動を担う「人」を取材して、それぞれの生きざまに焦点をあてた情報冊子の作成をします。取材のインタビューから作成の過程が、関わる人が関係性や考察の深まる場にしていく事業です。YS市庭コミュニティ財団の助成による事業です。

#### ④【地域連携】松戸東口周辺活性化「ヒカッテルネ！松戸マルシェ」事務局

今年度の活動で、目に見えて躍進したものは、松戸マルシェの活動です。事務所を松戸駅東口に移転したことで、東口商店会と信頼関係が築かれ、「東口定期祭り」として一緒に進めていくことになりました。実行委員会にも徐々にメンバーが集まり始めています。活動の成果がわかりやすく、喜んでくれる人が目の前にいるという点では、松戸マルシェの活動は、CoCoTの活動の中ではアピール度の高いものです。

NPO法人アイギスの支援として、松戸市商工振興課の補助金申請や報告書の作成、梨香台商店会クリスマスセールの実施などをサポートしました。ピーク時には、200名以上の集客があり、梨香台団地中央公園の賑わいは大変なものでした。メディアや取り上げられて、J:Comではテレビ報道がありました。

#### <松戸マルシェ 2017 年度開催実績>

開催予定 9回 実施回数 7回

No	日付	内容
1	4月16日	実施
2	5月21日	実施
3	6月18日	実施
4	7月	暑いのでお休み

5	8月	暑いのでお休み
6	9月17日	雨天のため中止
7	10月29日	雨天のため中止
8	11月19日	実施
9	12月17日	実施 クリスマスイベント
10	12月23日	実施 梨香台クリスマスイベント
11	1月	寒いのでお休み
12	2月	寒いのでお休み
13	3月18日	実施

⑤【NPO 支援】まるごとスマイルファンド(休止)

⑥【地域連携】地域活性化センター松戸の運営

通年、下記を実施した。

ア) あんしんほっとライン受付業務

イ) 松戸マルシェ受付業務

ウ) 会議や活動の会場提供

エ) メルマガの発行

オ) 市民活動の情報収集や提供

(2) コミュニティ・シンクタンク部門

① 調査研究事業

【地域連携】高齢化社会に対応した地域の見守り体制づくりの研究

委託者: 公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団

○ 第3期 豊かな高齢社会システムづくり実践的研究事業

調査テーマ 高齢社会における住民主体のまちづくりの調査研究

(住民主体活動による「あんしん電話」導入事例の検証を通して)

実施期間 2016年度4月～2017年度9月

報告書概要

A 「あんしんネット」が先駆性の高い事業として評価され始め、松戸市内だけでなく、将来的には導入を希望する他市町村へシステム(設置から見守り体制の構築、情報共有化、地域コミュニティづくり)をパッケージとして提供する可能性もでてきた。

B 「あんしん電話」システムのサーバーが置かれている「あんしんネット」を中心としたドーナツ状の新たなネットワークが構築され、人と人の関わりを蓄積させ、より親密な関係を作り出す、高齢化した地域社会のインフラとして定着する可能性が見えてきた。継続性あるネットワークにするためにも関わる「人材育成」が大きな課題と

言えよう。

○第4期 豊かな高齢社会システムづくり実践的研究事業

実施期間 2017年度10月～2019年度9月

②NPO 支援センターコンサルティング

【NPO 支援】流山市民活動推進センター運営サポートを実施しました。

③講師派遣

○【講師派遣】

「野田市ボランティアリーダー養成講座」

日時:第1回・第2回 2017年12月

場所:野田市社会福祉協議会

④相談内容

相談業務が増えた。NPO 法人の経営者が、経営上の悩みについて、一般的な知識を提供してくれるところはあっても、個別具体的な相談ができる機関や場がないことが分かった。

○定款変更 2件

○事業計画 3件

○運営相談 12件

⑤CSR 支援

○中小企業が、地方自治体に民間下請事業者として登録する際に必要な手続き書類の記載方法の指導。企業の事業実績を、公共性という視点から整理して捉えなおして実績として表現するためのアドバイスをを行いました。

民間企業の経営コンサルティングも新たな取り組みでした。民間の中小企業が生き残っていくために、地域への貢献、つまり、企業の本来業務が地域社会の課題解決に取り組んでいくものであることを認識しなくてはならない時代になりました。「稼いで、儲かってよかった」という発想では生き残れなくなったのです。特に、若い世代は仕事にやりがいと評価を強く求めています。彼らが、従事する仕事が地域貢献に繋がっていることを知ったときの喜びは非常に大きなものです。これからの CoCoT の仕事としての可能性があります

## 2 管理系

### (1) 広報

メルマガの定期的発行を行いました。その他の CoCoT 事業に直接的にかかわる広報活動には、ほとんど着手できませんでした。

### (2) 組織運営

以下の会議を、必要に応じて開催しました。

- ・総会（年 1 回）
- ・理事会（年 6 回）
- ・経営会議（12 回 一般社団法人あんしん地域見守りネットと共同会議）
- ・センターミーティング（月 1 回 スタッフ全員参加）
- ・担当者ミーティング（随時 企画担当者間で必要に応じて開く）
- ・朝礼（出勤スタッフのミーティング）

### (3) 経営

個々の企画の採算より、法人全体のキャッシュフローを重視した経営を目指しました。資金調達のツールを整備するところまではできませんでした。